



一般社団法人コンパスナビ
理事 高橋多佳子さん

事務局長
堀田さん

皆登会 埼玉県女子自立更生センター



▲週に1回、入居者と一緒に食事を作って食べる食事会を開催している。「何でも話せる関係性が問題の早期発見につながる」と堀田さんは話す。

“多佳子さんのご飯が食べたい、”

皆登会 埼玉県女子自立更生センターでは、スタッフの皆さんが日々、入居者の自立に向けて全力で支援に取り組んでいます。現場で感じる支援の喜び、難しさ——彼らはどんな想いを胸に、日々の支援に向き合っているのでしょうか。一般社団法人コンパスナビ理事の高橋さんとセンター事務局長の堀田さんにお話を伺いました。

—これまでの支援でどんなことが印象に残っていますか。

高橋さん 過去に、すごくふてくされた感じの子がいたんです。仕方なくここにいないという態度で、食事の手伝いも渋々やっています。た。どうやら、その子は私のことが苦手だったみたいです。

堀田さん 高橋は結構グイグイ来る世話焼きタイプなので(笑)そういうのが苦手な子だったんですね。でも、ある程度期間が経つと、変わっていったんです。「多佳子さんのご飯が食べたい。次はいつですか」と。

高橋さん うれしかったですね。食事の準備でも、その女の子が知恵を絞って「今度あれ作りましょう、挑戦してみしよう」って言うてくれるようになって、一緒にだいがレシビ考えました。楽しかったなあ。



▲「久喜の野菜はおいしい！」最近市内に引っ越してきた高橋さんは、料理に久喜の旬の野菜をふんだんに使うという。

—変化を感じられるのは嬉しいことですね。支援の中で難しさを感じることはありませんか。

堀田さん もちろん、良い話ばかりではありません。先ほどの話はかなり成功した事例ですが、センターを途中で出ていく方もいるし、音信不通になる方も。再犯してしまいう方もいる。我々の活動が100%成功しているかという、全くそんなことはありません。

高橋さん 対人援助職って辛いなあって思うこともありますよ。裏切られたり、逆恨みされることのほうが多いです。それを覚悟の上で行っています。ここにいる数カ月間に、それまでの人生で身に付いた生き方・考え方の癖は簡単には変えられません。でも、誰かと比べてではなく、昨日の彼女、以前の彼女より一歩進んだと、そう



▲月1回開催する地域交流イベントの内容は幅広く、笑いヨガ、うどん作り、笑い文字の作成教室、保護犬の譲渡会、藍染めなど多岐にわたる。

—続いて、センターの特徴的な取り組みの1つ、地域交流イベントについてお聞きます。どのような経緯で始まったのでしょうか。

堀田さん 3歩進んで2歩下がったりするけど(笑)

高橋さん もっと下がることもあるね(笑)

堀田さん でも長いスパンで見るときに、人と接することで成長しているなと感じますね。

「迷惑施設」から「地域のつどいの場」へ



—再出発を目指す方がいる中で、地域社会はどうあってほしいですか。

高橋さん 転んでも立ち上がろうとしている人を、心から応援してあげてほしい。言葉掛けしなくてもいいので、温かいまなざしで見たいほしいな。

堀田さん こういった施設が地域の方から距離を置かれてしまうこともあるのは致し方ないところですが、なぜこのような施設が必要かというところを知っていただけたら。その人の人生を良くすることにも価値はありますが、「新たな被害者を生まない」—そこに尽きると思うんです。それが地域の安全に貢献していく。そのための自立更生支援ということを知っていただけると、すごくありがたいです。

—スタッフへの思いは。

めちゃくちゃあります！親身になって色々聞いてくださったり、たくさん力を貸してくれて…そのおかげで今の自分があるので、感謝の気持ちでいっぱいです。今は



▲堀田さん同席のもと、オンラインでインタビュー。終始明るい表情で快く質問に応じていただいた。

過去の入居者にお話を伺いました

皆さんの支えで、今の自分がある。

市外在住 40代女性（入居期間…約3カ月）

—センターでの生活はいかがでしたか。

最初はどんな感じなのかなんて思っていました。1週間もしないうちに溶け込むことができました。地域交流イベントで近所の方と会話したり、イベントにスタッフとして参加することもあり、良い経験につながりました。

—思い出に残っていることは。

週に一度の食事会や皆さんと協力して行ったセンターの草むしり、いろいろな交流…思い出はたくさんあります。

毎朝散歩していると近所の方にお会いして、無償で野菜をいただいたりすることも(笑)毎日お会いする方、初めての方、皆さん良い方たちばかりでした。

—現在は何をなさっていますか。

私に合う条件で仕事を探していた。紹介いただいた飲食店で働き始めて丸2年になります。順調にやらせていただけており、とてもやりがいを感じています。

今は、自分が周りの人の手を借りずに、いかに自立して生活しているかを目標としています。不安もありますが、毎日の生活1日1日を大切にしていきたいと思っています。